様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２６２７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０３０７

研究課題名（和文）ポピュラーメディアにおけるシェイクスピアの言及と消費に関する研究

研究課題名（英文）A study of the consumption of Shakespearean references in popular media

研究代表者
南　隆太（Minami, Ryuta）

白百合女子大学・文学部・教授

研究者番号：６０２４７５７５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、シェイクスピア作品のポピュラー・カルチャーにおける受容と消費の在り方について、マンガ、アニメ、映画、インターネット上のサイトやゲームでの言及について包括的な調査とその分析を行った。シェイクスピア作品が、作品の原形をとどめる形で消費されるのではなく、むしろ断片化され、受容者の知識（時には無知）を利用する形で「シェイクスピア」が言及・利用される実態を明らかにした。本研究は、アメリカ、イタリア、フィリピンなど海外の研究者と連携をしながら行ったが、国際的な比較を通して共通点も明らかになったが、日本のポピュラーメディアにおけるシェイクスピア消費の特異性が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This research conducted a comprehensive survey of the ways Shakespeare's works are re-created and consumed in Japanese popular media such as TV animations, manga, films, video games and various sites on the internet.The project has found that most recreated works or media objects of Shakespeare's plays are far from 'translation' or 'adaptation' in that Shakespeare's works are sometime unrecognizably fragmented and the usages of Shakespeare are mostly mere references to his plays. Such deliberately fragmented Shakespeares do not expect their recipients of certain knowledge of Shakespeare. They were created primarily for recipients or consumers with very much limited knowledge or even ignorance of Shakespeare. This research, which was carried out with the help of scholars from the United States, Italy and the Philippines, has also revealed that we can find some similarities in the ways of consuming Shakespeare in popular culture/media,though not the same.

研究分野：英文学

キーワード：シェイクスピア　ポピュラーメディア　言及　二次創作　マンガ　アニメ

１．研究開始当初の背景

本研究申請の前年(2011 年)にチェコで開催された World Shakespeare Congress において、「ポピュラー・カルチャーにおけるシェイクスピア」に関するセミナーが開催され、これまでは発表で取り上げる作品は映画が中心であったが、セミナー・リーダーの一人である Richard Burt 教授（フロリダ大学）らとの話し合いの中で、アニメやマンガ、さらにはCMや映画でのシェイクスピアへの言及が研究対象としてはまだ十分に認知されていないことを改めて強く意識するようになった。特に、ファンによる二次創作等が社会的にも認知されている日本において、シェイクスピアはさまざまなところで断片的に利用されている現実を思い上記 Richard Burt 氏に私淑して 2000 年頃よりこの分野の研究に取り組んできた申請者は、このような文化現象を海外の研究者と連携しつつ研究することに、新しいシェイクスピア研究の可能性があると考えた。

２．研究の目的

本研究は、舞台、書籍、映像という既存のメディアを超えて再生産・再創造され続ける「シェイクスピア」について、国際的な研究者間ネットワークを活用して、グローバルな視点から考察するものである。文化、そしてメディアを超えて翻案や言及により移動し消費される「シェイクスピア」のあり方を多様な視点から検討し、その結果を基に、既存の「シェイクスピア」研究では十分に議論されることのなかったポピュラーメディアにおけるシェイクスピアへの言及と消費のあり方について Naught Shakespeares という概念を基に研究することを目指していた。

３．研究の方法

多様なポピュラー・メディアで発信される Naught Shakespeare は、その情報・資料収集が、３年間を通して研究の中心をなすが、申請者(南)は、研究者ネットワークの拡大と資料の調査・収集を世界規模で行う。

資料収集については、本研究が対象にする作品（メディア・オブジェクト）が、タイトル等より必ずしもシェイクスピアと関係があるとわかるものばかりではないこと、また作品がインターネット上などで存在し、一般に入手が難しい場合などもあるため、書籍や DVD や CD のほか、インターネット上のサイトなどで創作されたものやゲームなど、作品の形態が多様であることを念頭に、さまざまなメディアを渉猟することとなる。

本研究プロジェクトの最終年である平成 27 年度 10 月には、本プロジェクトに積極的に関わる米国フロリダ大学英文学科教授で研究協力者の Richard Burt 氏を招いたセミナー “Shakespeares Tattered and Re-imagined in Manga/Comics, Animation and TV Drama” を第 54 回日本シェイクスピア学会で企画し、これまでの研究成果について発表するとともに、本研究について Burt 教授との意見交換を行う。さらに 12 月には英国、中国、台湾、フィリピン、カナダの研究協力者を中心に招いた International Shakespeare Forum: Popular Shakespeares on Page, Stage, Screen and TV を開催。本研究プロジェクトの総括として、国内外の研究者に広く声をかけて国際会議を開催し、研究成果を公表し評価を受けるほか、国際学会等で本研究テーマの重要性の理解を含め、研究分野としての確立を目指す。

４．研究成果

本研究の成果は、国際的な研究領域としての「シェイクスピアのポピュラー・メディアにおける流通の様態とその文化的意味や評価及び研究方法の確立」を目指し、シェイクスピアが断片化され時に国境や文化的境界を超えて流通する過程を明確にして議論する機会を国際的な場で作り、本研究機関である過去 3 年間にかなり周知されるようになってきている。このことは、2014 年にパリで開催されたシェイクスピア生誕 450 年を記念する国際学会において、申請者が座長として行ったパネル・ディスカッションでは、通常の 2 倍に相当する 3 時間にわたるパネル・ディスカッションが二部形式で採用され、実施できたこと。さらにパネル・ディスカッションに聴取として参加した研究者の多用な背景からも、本研究のとりあげる内容が国際的な認知を得るに値するものであることが確認できた。

国際的な場でさまざまな研究者との議論の中で、申請者が唱えようとしていた Naught Shakespeare という概念が必ずしも現代見られる文化現象を包括的に説明する言葉ではないことが明らかになり、特に研究協力者である故 Mariangela Tempera 教授（イタリア・フェラーラ大学）が繰り返し使用してきた‘tattered’という言葉を鍵に論じる方が適切であるという指摘を受けたことから、早い段階で Naught Shakespeare という言葉を使わずに論を展開するようになった。

また、本研究成果の一部は、実際のシェイクスピアを基にしたマンガ実作者とも連携しながら研究教育を進めることとなり、研究協力者の一人である台湾の静宜大学英語英文学科 Yilin Chen 副教授が台湾文部省の助成を受けて制作した MOOCs プロジェクト“2015 Global/Local Shakespeare”にもシェイクスピアの授業の一環として取り入れられている。

http://sharecourse.pu.edu.tw/sharecourse/course/view/courseInfo/63

さらに、本研究に強い関心を持って研究協力をしてくださったフィリピン大学ディルマン校(Univ. of the Philippines Diliman)の Judy Ick 教授は、2011 年より授業の一環として Transmedial Shakespeare というサイトを学生と作り本研究テーマに隣接する領域について広く情報を提供してきたが、2013 年 12 月の現地での学会の際に学生に話をする機会を与えて戴き、フィリピン大学の教員の

みならず学生、大学院生とも意見交換をする機会を得ることができた。
以上のように、本研究は当初の予定通り海外の研究者との連携を深め、グローバルな視点からポピュラー・メディアにおけるシェイクスピアのあり方についての研究だけでなく、当初の研究目的を超えて、アジアにおけるシェイクスピア教育との関連についても検討することができた。
　その意味では、本研究最終年度の 2015 年 10 月 10 日のシェイクスピア学会で研究代表者(南)が企画したセミナーでの発表と招聘した研究協力者 Richard Burt 教授の発表を通して、本研究成果の一部を公開できたこと、さらに本研究テーマについて学会内外で議論できたこと。さらには 12 月 12 日と 13 日に、イギリス、フィリピン、台湾、カナダ、中国の研究者を招聘して開催した国際研究集会 International Shakespeare Forum in Tokyo: Shakespeares Tattered on Page, Stage, Screen and TV における議論は、シェイクスピアの断片化と流通・拡散・消費の現状を多様な視点から考察する場として、本研究の総括とともに、次の方向性を考える良い機会となった。

以上の成果は以下のようにまとめることができる。
(1)シェイクスピアに起因する派生的作品が、どのような審美的・文化的・政治的基準によって分類・整理されてきたのかを明らかにしてきた。日本における断片化するシェイクスピアについては、「サブカルチャー」や「オタク文化」という枠組みでの議論が中心になっており、アメリカのファン・カルチャーとの比較が意味があると思われるが、同時に祖の違いが明らかになってきている。その一方で、フィリピンや台湾等における若者による日本文化の受容との関係で、日本との関係を確認することによって、アジアを起源としないシェイクスピアの文化・社会・政治的な位置がどのような意味を持つのかについて、一層の研究が必要であることが明らかになっている。
（２)フラット化する今日の世界的文化状況における文化資本「シェイクスピア」の移動のもつ（非）政治性を明らかにすることの必要性をも明らかにしている。本研究は、主にグローバルに広がるポピュラー・メディアにおける断片化されたシェイクスピアの調査に重点を置かざるを得なかったが、英語圏など一部の国に置いてはフラット化する世界との関係において非政治性を検討できるが、その一方で日本との関係、「本場イギリス」との関係を再度検討することが、今回の研究における調査結果を補うものとなるだろう。
　また、本研究を進める過程で、2015 年末に亡くなったイタリアの Mariangela Tempera 教授をはじめ、アメリカ、イギリス、カナダ、台湾、チェコ、フィリピン、ブラジル、フランス、ポーランド、メキシコなど海外のさまざまな研究者とのネットワークを築き、研究協力あるは意見交換ができるようになったことは、今後さらに研究を進めるにあたって大きな成果といえる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
① Minami, Ryuta. “Hello Sha-kitty-peare?: Shakespeares Cutified in Japanese Anime Imagination” *Journal for Early Modern Cultural Studies* (2016) 特集号 Special Issue: Cute Shakespeare に掲載確定。査読あり。
②Minami, Ryuta. “Finding a Style for Presenting Shakespeare on the Japanese Stage.” *Multicultural Shakespeare: Translation, Appropriation and Performance* (2016) 特集号 Special Issue: Shakespeare in Modern Japan に掲載確定。査読あり。
〔学会発表〕（計　９件）
①Minami, Ryuta. “Shakespearean Characters Set Free: Shakespearean Bits and Fandom.”
学会名：Elsinore Conference 2016: Shakespeare the Next 400 Years
会場：Kronborg Castle, ヘルシンゲル（デンマーク）
発表日：2016 年 4 月 23 日
②Minami, Ryuta. 「読まずに楽しむシェイクスピア？：ポピュラー・カルチャーにおける文学作品の受容と変容―文学テクストの断片化と流通・消費をめぐる一考察」
学会名：淡江大學日本語文學系創系 50 週年黃憲堂教授紀念國際學術研討會
会場：淡江大學　新北市（台湾）
発表日：2016 年 3 月 26 日
③Minami, Ryuta. “Finding a Style for Presenting Shakespeare on the Japanese Stage.”
学会名：The 2nd International Shakespeare Forum: Popular Shakespeares on Page, Stage, Screen and TV
会場：NATULUCK 飯田橋，東京
発表日：2013 年 12 月 13 日
④Minami, Ryuta. “Shakespeare Animated and Cutified: The Bard and Intermedial Adaptation.”
学会名：第 54 回シェイクスピア学会
会場：北海道教育大学函館校，函館市（北海道）
発表日：2015 年 10 月 10 日
⑤Minami, Ryuta. “Creating Manga Shakespeare for Mature Female Readers.”
“Reading Harumo Sanazaki’s *Romeo and Juliet* with the Artist.”
学会名：ANIMEX
会場：Teesside University, ティーサイド（イギリス）
発表日：2015 年 2 月 11 日
⑥ Minami, Ryuta. “Global Dissemination of Fragments of Shakespeare in Japanese Anime

Culture."
学会名：Shakespeare 450
会場：Ecole de Mines-Paris Tech and ENS, **パリ（フランス）**
発表日：2014 **年** 4 **月** 23 **日**
⑦Minami, Ryuta.**（招聘講演）** "Frivolity, Thy Name is Shakespeare?: Questioning the Imagined/Established Cultural Status of Shakespeare on Today's Japanese Stage."
学会名：Shakespeare in Asia, Manila 2013
会場：University of the Philippines Diliman **校**, **マニラ（フィリピン）**
発表日：2013 **年** 12 **月** 5 **日**
⑧Minami, Ryuta.**（招聘講演）** "Shakespeares Fragmented in Global Pop Culture."
学会名：The International Shakespeare Conference at Seoul 2013: Shakespeare in Global/Local Contexts
会場：Seoul National University, **ソウル（大韓民国）**
発表日：2013 **年** 11 **月** 2 **日**
⑨Minami, Ryuta.**（招聘講演）** "Significances of Shakespearean Fragments: Referring to Shakespeare in Japanese TV Animation Films."
学会名：Shakespeare in Tatters
会場：University of Ferrara, **フェラーラ（イタリア）**
発表日：2013 **年** 5 **月** 10 **日**

〔図書〕（計１件）
① Minami Ryuta. "Significances of Shakespearean Fragments: Referring to Shakespeare in Japanese TV Animation Films." In *Shakespeare in Tatters* Edited by Alexa Huang and Victoria Bladen. Palgrave **より出版確定。** 2017 **年出版。**

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
○取得状況（計０件）
〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
南　隆太（MINAMI，Ryuta　　）
白百合女子大学　文学部　教授
研究者番号：６０２４７５７５

(2)研究協力者
Burt, Richard
アメリカ　フロリダ大学　英文学科 教授
(Department of English, College of Liberal Arts and Sciences, University of Florida)

Chen, Yilin
台湾　静宜大学　英國語文學系　副教授
(Associate Professor)

Ick, Judy
フィリピン大学ディリマン校　英語比較文学科　教授
(Department of English and Comparative Literature, College of Arts and Letters, University of the Philippines Diliman)

Paterson, Ronan
英国 ティーサイド大学　芸術・メディア学部　主任講師 (Principal Lecturer)
(School of Arts and Media, University of Teesside)

Tempera, Mariangela
イタリア　フェラーラ大学　英文科教授　シェイクスピアセンター長
(Department of English Literature, Shakespeare Centre, University of Ferrara/ Professoressa di Letteratura Inglese nel nostro Ateneo, L'Università di Ferrara)

真崎　春望
マンガ家